

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	国語・論理国語		単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。さらに、他者の思いや考えを適切に理解できるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 (4) 読書することによって人生を豊かにする態度を身につける。 (5) 文章を書く力、表現力を身につける。					
使 用 教 材	【教科書】新編 論理国語（大修館書店） 【副教材】新訂国語図説五訂版（京都書房）、国語辞典第十一版（旺文社）					
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	実社会に必要な国語の、より高度な知識を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばしている。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりするとともに、他者の思いや考えを適切に理解している。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。			
評 価 方 法	目標をふまえ、「主体的に学習に取り組む態度」は、日々の授業への取り組みを中心に、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査を中心に、提出物への取り組み等も含め、総合的に評価する。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	「自己を見つめて」、「思考を深める」より数篇 読書指導		・ 論理の展開をたどりながら、さまざまなテーマについての知識や考え方を深める。 ・ 読書に対する関心・意欲・態度を養う。			
2 学期	「視点を変えて」、「現代を考える」より数篇 読書指導		・ 論理の展開をたどりながら、さまざまなテーマについての知識や考え方を深める。 ・ 読書に対する関心・意欲・態度を養う。			
3 学期	「未来に目を向けて」より数篇		・ 文章を通して、社会の一員としての自分の考えを深める。			
学 習 上 の 留 意 点	・ 授業の準備をしっかりしてください。 ・ 課題は期日を守って提出してください。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	外国語（英語）・応用英語（学）		単位数 2 単位	履修年次 3 年
目 標	・ 英文法やリスニング問題の演習を通して、適切な言語運用の知識を身に付ける。 ・ 幅広い話題の英文を読み聞きし、内容の理解・整理をし、自分の言葉で表現できる力を養う。			
使 用 教 材	【副教材】トランスファー英語総合問題演習コース B（桐原書店）、自主教材			
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章（エッセイや物語）などから、自分が必要とする情報を読み取ることができる。また、簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握することができる。	関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明することができたり、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、理由や具体例をつけて、50 語程度の簡単なスピーチをすることができる。また、自分の意見や主張を理由を 2 つ以上つけて 25～35 語程度で論理的に書くことができる。	授業を通じて、自分の気持ちや考えを積極的に話したり、書いたりする。ペアワークやグループ学習で協力して課題を克服しようと取り組むことができる。また、英語だけでなく英語圏の多様な文化について積極的に学ぼうとする。	
評 価 方 法	・ 積極的に言語活動に取り組んでいるか ・ 幅広い話題について意見・情報を整理・表現できるか ・ 幅広い話題の英文を読んだり聞いたりして整理・理解できるか ・ 言語運用の知識を身に付け、背景にある文化等を理解しているか 以上 4 つの観点を、普段の授業・提出物、定期考査、各種テスト等で確認し総合的に評価します。			
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
1 学期	長文読解練習 Unit 1 動詞の時制 Unit 2 完了 Unit 3 助動詞 Unit 4 受動態 Unit 5 不定詞・動名詞①		より難解な長文読解を通して、英文を理解し表現するために必要な文法事項を整理し学習します。さらにより高いレベルのリスニング問題に取り組み、聞く力を養います。 また、多様な英文に触れ、学習した文法事項の確認と英文読解力や語彙力の向上を図るとともに、整理・理解のスピードを高め、表現へとつなげます。	
2 学期	長文読解練習 Unit 6 不定詞・動名詞② Unit 7 分詞 Unit 8 関係詞① Unit 9 関係詞② Unit 10 比較			
3 学期	長文読解練習 Unit 11 さまざまな文型 Unit 12 間接疑問 Unit 13 接続詞 Unit 14 代名詞 Unit 15 前置詞			
学 習 上 の 留 意 点	英文を読み解くために必要な語彙力や文法の知識を身に付け、英文を速く正確に読み聞きする力を養います。そのためには日々の予習・復習、授業に対して積極的かつ継続的に取り組む態度が必要です。個人端末を通じてファイルを参照したり提出することなども必要になります。			

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	芸術・美術Ⅲ		単位数	2	単位	履修学年	3年
目 標	・課題作品の制作を通して、ものを見るための感性を伸ばし、深く物事を観察する力や想像力を身につける。 ・表現力をより一層伸ばすと共に、美術についての理解を深め、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てる。						
使 用 教 材	【教科書】 美術3（光村図書） 【副教材】 クロッキーブック、自主教材						
評価の観点 ・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	課題作品の制作において、道具や材料の特性を工夫しながら、自分の表現を実現している。作品を鑑賞する態度と制作技法を理解し自分の表現を検討ができる。		課題作品のテーマやその表現方法を芸術的な感性により、独創性のある世界を構築している。		制作課題のテーマに関心を持ち、内容を的確に把握している。芸術的な創作活動に積極的に取り組んでいる		
評 価 方 法	目標を踏まえ、美術Ⅲに対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「発想力・創意工夫」「表現技術」「知識・理解」は、提出作品を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況（完成度、技術、対象物の理解度、発想力）等をもとに総合的に判断し評価します。						
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1 学期	・クロッキー ・鉛筆・木炭デッサン（静物、石膏像）			・人物クロッキーを行い、基本的なデッサン力を身に付けます。 ・与えられたモチーフをデッサンの技法を理解し、形態、陰影、空間、質感工等を、工夫しながら表現します。			
2 学期	・着彩（絵画的表現） ・デザイン作品の制作			・与えられたモチーフを絵の具の特性を知り、工夫しながら表現します。また、写實的にだけでなく自分なりの個性を表現します。 ・与えられた課題を自らイメージや、材料の使い方の工夫により、表現するだけでなく、ニーズを考慮に入れながら、アイディアを出す思考を養います。			
3 学期	・立体構成作品の制作 ・作品鑑賞			・自らイメージしたものを、与えられた材料を 基に立体的な造形作品に仕上げます。イメージする力を身につけ、材料の使い方の工夫により、立体的な造形ができるようにします。 ・鑑賞力を身につけ、感性を高め、美術文化について理解を深め、個性豊かな能力を高めます。			
学 習 上 の 留 意 点	・自分の作品の完成度を追及するには、授業中の集中力が必要です。 ・制作に必要な道具や材料を事前に準備する計画性が必要です。 ・課題作品の提出期限は必ず守ってください。						

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	芸術・書道Ⅱ		単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	・書道のより深い活動を通して、書の文化への関心を高め、生涯に渡って芸術を愛好する心を養う。 ・作品制作をととして、主体的に自己を表現し、感じ取る力や思考する力を一層豊かにする。					
使 用 教 材	【教科書】書道Ⅲ（東京書籍） 【副教材】ペン習字の基礎（教育図書）					
評価の観点・評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	書の創造的活動を進めるため古典研究に真摯に取り組む、豊かな発想に結びつけて考えようとしている。	古典研究で培った知識や技能を創作活動に応用し、自己の作品の表現につなげようとしている。	書の伝統文化を尊重し、幅広く理解し、書の審美眼や芸術性を高めようとしている。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、書道Ⅲに対する「知識・技能」については提出作品を中心に評価をおこなう。「思考・判断・表現」については鑑賞カード、創作ノート、レポート等を中心に評価をおこなう。「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心にどれだけ前向きに学習に取り組んでいるかを評価し判断する。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	漢字・仮名の書 ・自由選択古典の臨書 実用の書 ・ペン字・小筆の基礎練習		・自分の好きな古典を臨書し、自己表現の技術 を高め、古典の性情を理解する。			
2 学期	漢字・仮名の書 ・倣書創作作品制作 実用の書 ・ペン字・小筆の基礎練習		・古典をもとに、自己の創作作品を仕上げる。			
3 学期	漢字仮名交じりの書 ・自由創作作品制作		・自らの思いや感動を表現する語句を選び、自 己の意図やねらいを達成するために、表現の 工夫をする。			
学 習 上 の 留 意 点	・主体的、積極的に作品制作に取り組むこと。 ・それぞれの進路に応じて自ら取り組む課題を設定し、熱心に取り組むこと。 ・ペン字は、書写書道検定にも対応している。 ・大学実技受験には個別に指導する。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（機械科）・生産技術		単位数	2 単位	履修学年	3 年
目 標	・生産に関わる計測、生産管理、品質管理について理解する。 ・電気の基礎、制御の種類や機構の基礎を理解する。 ・生産システムに関する電子回路、情報機器と電子部品について理解する。					
使 用 教 材	【教科書】生産技術（実教出版）					
評価の観点 ・評価規準	「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に取り組む態度」			
	生産システムに関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。	生産システムに関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	生産システムに関する基礎的・基本的な技術を身につけ、環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現できる。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、生産技術に対する「主体的に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。					
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い		
1 学期	・生産管理 生産設計 品質管理 ・電気基礎学習 オームの法則 キルヒホッフの法則			・生産に関わる計測、生産計画、品質管理などの生産にかかわる事柄を学習します。 ・電気の基礎法則について学習します。		
2 学期	・電気基礎学習 直流回路 交流回路 ・情報機器と電子部品 パーソナルコンピューター 電子部品			・電気の基礎である直流・交流について学習し、その法則に従った電気機器を理解します。 ・電子部品について、それぞれの特性、特徴を学習し、それを活かした機器について学習します。		
3 学期	・制御技術 シーケンス回路			・制御の基礎であるシーケンス制御について学習します。1・2年生の実習内容を思い出しながら学習すると、より効果的です。また、平行して3年生の実習で実技をします。		
学 習 上 の 留 意 点	・生産システム技術は、電気についての学習だけでなく、機械制御や生産、品質の学習を含んだ機械科の基礎・基本科目のひとつです。関心・意欲を持って取り組んでください。 ・電気の基礎においては、いろいろな場面で計算力や読解力が必要となります。授業では問題集を用い、それらの基礎についても学習します。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（電子技術）		単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	・電子回路に関する基礎的な知識をもとに、実際に活用する能力と技術及び態度を育て、回路素子の機能や特性、電子回路の応用技術について理解を深める。			
使用教材	【教科書】電子技術（実教出版） 【副教材】自作教材（プリントなど） 【その他】タブレット			
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
	・電子技術の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解している。	・電子技術に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。 ・実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	・電子技術に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。	
評 価 方 法	到達目標を踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、課題または小テストまたは単元テストまたは定期テストなどを中心に評価します。「主体的に取り組む態度」は、粘り強く理解しようと自分なりに工夫して取り組む姿勢を評価します。			
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
1 学期	電子回路素子 ・半導体、ダイオード、トランジスタ ・FET とその他の半導体素子 ・集積回路 ・応用計測		・通信機器やコンピュータなどに使われる電子回路素子の電流や電圧の制限、整流、増幅、スイッチングなどの電子技術の働きを学習する。 ・電子回路素子の構造、電気的性質および用途などについて学ぶ。	
2 学期	増幅回路の基礎 ・トランジスタ増幅回路の基礎 ・トランジスタのバイアス回路 ・トランジスタによる小信号増幅回路 ・トランジスタによる小信号増幅回路の設計 ・FETによる小信号増幅回路		・増幅という用語の定義、トランジスタによる増幅の原理、基本増幅回路、 h パラメータと小信号等価回路などについて理解させる。 ・バイアス回路の安定度・種類・特徴などについて理解させる。 ・電圧増幅度と周波数特性などについて理解させる。	
3 学期	発振回路 ・発振回路の基礎 ・LC 発振回路、CR 発振回路 ・水晶発振回路		・ R_E による負帰還・エミッタホロワ・多段増幅回路の負帰還などについて理解させる。 ・発振回路の動作や回路の種類、その特徴および回路例について学ぶ。	
学習上の留意点	・予習・復習をしっかりし、日々の授業を大切にしてください。 ・与えられた課題は、提出期日を守り必ず提出してください。			

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（建築デザイン科）・建築計画	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	・建築計画に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を身につける。				
使 用 教 材	【教科書】建築計画（実教出版） 【副教材】自主教材				
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	建築計画に関する知識を十分理解できたか。建築計画の内容を他の教科に応用できる力がついたか。	建築計画に関する課題に対して、幅広く柔軟に考え、的確な判断、回答をすることができるか。建築計画で学習した内容を略図や文章で的確に表現できるか。	建築計画に関心を示し、その考え方や内容を的確に把握して取り組んでいるか。		
評 価 方 法	目標を踏まえ、建築計画に対する「関心・意欲・態度」と「思考・判断」については日々の授業を中心に評価を行い、「技能・表現」と「知識・理解」は定期考査や提出物（ノート、プリント）を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等を総合的に判断し評価します。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期	1. 建築と環境 ・建築と環境の概要 ・屋外換気用と室内環境 ・換気と通風 ・伝熱と結露 ・日照と日射 ・採光と照明 ・色彩 ・音響		・建築計画の概念、室内空間、日常生活行動等から建築計画の内容や進め方について学習します。 ・建築計画（デザイン）において、形態、色彩、テクスチャー、空間などの造形要素が、人間の心理にどのように働きかけているかを学習します。		
2 学期	2. 住宅の計画 ・住宅の意義 ・住宅計画の進め方 ・全体計画 ・各部の計画 3. 各種建築物の計画 ・集合住宅の計画 ・事務所の計画 ・小学校の計画	4. 都市と地域の計画 ・都市と都市計画 ・都市計画制度と都市計画法 ・建築と地域の計画 ・地域の計画とまちづくり	・建築の原点である住宅について、建築計画に係わる専門知識について学習します。 ・現代の住宅の多様性、生活行為、またバリアフリーなどの視点から、暮らしやすい生活空間の計画について学びます。		
3 学期	5. 建築設備の計画 ・建築設備の概要 ・給排水衛生設備、空調調和換気設備 ・電気設備 ・防災設備、搬送の設備		・建築物の内部における人間の生活について、安全面、快適さ、利便性、保守性など様々な観点から考え、それらを支える設備に関する知識を学習する。		
学 習 上 の 留 意 点	・教科書や配布したプリントあるいはノートを、忘れずに準備してください。 ・普段の授業を大切にしてください。また、提出物は期日までに必ず提出してください。				

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業（生物資源科）・畜産		単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	・ 畜産振興と生産経営に必要な知識と技術を習得する。 ・ 動物の特性や成育環境を理解する。 ・ 伊賀地域に応じた地産地消の意義を学ぶ。					
使 用 教 材	【教科書】 畜産（実教出版）					
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	動物の種別による特徴理解があり、衛生的な配慮ができる。流通手段や経費、経営の改善について理解している。	現代畜産の特徴とあゆみについて知り、世界と向き合える思考力に期待する。伊賀地域の気候特徴と飼育管理への留意が科学的にすすめられている。あたたかく思いやりのある態度や姿勢が表現されている。飼育・肥育計画、成育段階の特性に応じた飼育・肥育管理、診断方法を身につけ、その成果を適切に表現できる。	動物の役割や生理・生態に関心を持ち、食生活の変化を踏まえた畜産業の役割を考えている。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、畜産に対する「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断・表現」「知識・技能」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	第1章 日本の畜産の特徴と役割 ・ 日本 の 畜 産 の 特 徴 ・ 日本における畜産物の需給の動向 ・ 畜産の役割と課題 ・ 科学の発展と畜産への活用 第2章 動物の生理・生態と飼育環境 ・ 動物の生理・生態 ・ 飼育環境の調節 ・ 家畜排せつ物の処理と利用		・ 人と動物のあゆみについて学び、限りある資源のなかから、国際的な視野にたつての需要と供給のバランスを鑑みる。 ・ 生理・生態の把握と現状と未来を探索。 ・ 生産が及ぼす影響と有効活用について習得する。 ・ 地域ブランドの在り方と未来を創造する。			
2 学期	第3章 家畜と飼料 ・ 家畜の栄養と栄養素 ・ 飼料の特性と給与 第4章 家畜の飼育 ・ 養鶏 ・ 養豚 ・ 酪農 ・ 肉牛の飼育 ・ そのほかの家畜 ・ 野生生物への対応		・ 家畜の栄養の概念を通して、食料生産における畜産と飼料の位置づけと意義について習得する。 ・ 飼料の成分からその栄養的意義について理解する。 ・ 栄養素とその機能、代謝についての知識を習得する。 ・ それぞれの「品種の特性」「施設設備の方式と形態」「飼育・肥育技術」「衛生・健康管理」「付加価値を高める技術」「飼育・肥育計画と経営」について習熟する。 ※伊賀ブランド「伊賀山麓豚」「伊賀牛」については、最重要学習領域とする。			
3 学期	第5章 畜産と経営 ・ 畜産経営の基礎 ・ 畜産経営の改善		・ 畜産振興に関わる現状や課題を整理して、理解に努める。そのうえで、有効な情報活用をできる素地を磨く。			
学 習 上 の 留 意 点	・ 基本的には教科書に沿って授業を進めますが、地域の実態や本科の実践学習に適した題材を用いることがあります。 ・ 食生活と人の営みに関係する授業です。消費者と生産者相互の安全安心を真摯に考えることのできる人材育成を目指して授業を行います。わからないことは積極的に質疑するよう心がけてください。					

年間授業計画（シラバス）

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業・食品化学		単位数 2 単位	履修年次 3 年 フードシステム科
目 標	・食品の分析と検査に必要な基本的な知識と技術を身につける。 ・食品の成分と栄養を理解し、食品製造及び農業の各分野で応用する能力と態度を身につける。			
使用教材	【副教材】食品化学（実教出版） 自作教材（プリントなど）			
評価の観点 ・評価規準	知識・技能 食品の構成成分の特徴を理解するとともに、食品製造に必要な食品化学の知識が身につけている。食品の構成成分の分析に関する、基本的・基礎的な技術を身につけている。	思考・判断・表現 食品の構成成分の特徴とその役割を把握し、食品化学における各種成分の機能性を実験などを通して正しく判断することができ、考察をレポートで表現することができる。	主体的に学習に取り組む態度 食品の構成成分に興味・関心を持ち、各種の食品製造及び農業の各分野で応用できる意欲と態度を身につけている。	
評価方法	目標を踏まえ、食品化学に対する「知識・技能」と「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から行います。評価は、日々の学習状況、提出物（小テスト、ノート、プリント）、定期考査などにより総合的に評価します。また、食品化学実験について、自己評価・相互評価により、総合的に評価します。			
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
1 学期	食品の成分分析 ・食品分析の基礎 ・食品成分の定量分析 ・食品成分の物理・化学分析		・基礎となる重量分析を学習する。 ・食品成分の定量分析を学習する。 ・食品中の機器分析を学習する。	
2 学期	食品衛生検査と食品添加物 ・食品衛生検査の意義 ・食品添加物の種類と性質 ・食品添加物の検査		・食品衛生検査の必要性を学習する。 ・食品添加物の種類と性質を学習する ・食品添加物の検査を学習する。	
学期	食品衛生検査と食品添加物 ・残留農薬とポストハーベスト農薬 ・異物有害性金属の検査 ・器具・容器包装の検査 ・細菌の検査 ・水質検査		・農薬について学習する。 ・異物有害性金属の検査を学習する。 ・器具・容器包装の検査を学習する。 ・細菌の検査を学習する。 ・水質検査を学習する。	
学習上の留意点	・食品成分、栄養素に関する基礎的な科目である。 ・実習で実際に食品の加工を行うので基礎知識が身についた上で実践に役立てる。 ・課題やレポートの提出は期限に遅れないように注意する。			

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	商業・原価計算		単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	1．原価計算の基本的考え方と計算法及び工業簿記の記帳法を習得させ、原価についての理解を深める。 2．原価を中心とする会計情報を活用する能力と態度を育てる。							
使 用 教 材	【教科書】原価計算（実教出版） 【副教材】検定対応問題集を予定							
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	原価計算, 原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに, 関連する技術を身に付けるようにする。	原価計算, 原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし, ビジネスに携わる者としての科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び, 適切な原価情報の提供と効果的な活用に取り組む態度を養う。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、日々の授業を中心に評価を行い、定期考査を中心に評価を行う。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査、小テスト等を総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	製品の完成・販売と決算 原価情報の活用 復習			・個別原価計算と総合原価計算の違いを明らかにする。 ・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解させる。 ・工程別総合原価計算の手続きと記帳方法を理解させる。 ・財務諸表の特色を理解させ、製造原価報告書の作成に習熟させる。				
2 学期	工業簿記の学習			・異なる記帳方法を学習し、原価計算の勘定科目の表記方法や計算法を理解する。 ・検定を見据えた学習を行い、理解度を高める。				
3 学期	復習			・原価計算（工業簿記）のこれまでの学習を踏まえて、一連の取引の記帳方法を総合的に理解し、習得しているかを確認する。				
学 習 上 の 留 意 点	・学習成果として日本商工会議所主催簿記検定2級および全国商業高等学校主催簿記検定1級（原価計算の部）の資格取得を目標としているので、その対策も行う予定である。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業・園芸福祉（学） ヒューマンサービス科 生活福祉コース		単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	園芸福祉に関する基本的な知識と技術を習得して、福祉分野での活用力と態度を培う。また、園芸作物の特性と管理の方法を学んで、教育・医療・福祉などの他分野との関わりを理解する。					
使 用 教 材	【副教材】授業の際に参考図書等を紹介します。					
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	身体的効果・精神的効果・社会的効果を理解して、福祉分野での利用方法の知識を身につけ、私たちの生活の場との関わりを理解している。	園芸植物の特性を認識し、場面・用途における利用植物や用具を判断する能力を身につけている。フラワーアレンジメントなどのデザインまたは創作する技能を身につけている。 園芸作業の基本技術が身に付いている。	植物の新たな利用に関心を持ち、園芸福祉の知識や技術を取り入れようとする意欲を持ち、授業中の課題や作業に積極的に取り組む態度を身につけている。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、園芸福祉に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、作業の取り組み等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	園芸療法と世界の現状 園芸福祉をはじめるにあたって 夏野菜栽培		・園芸療法と園芸福祉について学び、対象者の違いと活動内容を理解する。 ・実際に活動するにあたっての心構えを理解する。 ・野菜栽培の技術を身につける。			
2 学期	地域性を活かした園芸福祉のあり方 すぐに取り組める園芸福祉のいろいろ 秋まき 1 年草の栽培		・地域住民とともに、誰もが関わることができる園芸を活用した地域づくり方法を学ぶ。 ・園芸作物の多面的利用術を学び、地域に根ざした活用場面を探る。また場面を想定して活用方法を探る。 ・草花栽培の技術を身につける。			
3 学期	園芸福祉の実践		・草花栽培の経験を活かし、園芸福祉のプログラムを立案し、実践してみる。			
学 習 上 の 留 意 点	・地域の一員として、一般社会に出てからの生活スタイルに生かせるよう、相互に積極的なコミュニケーションをはかること。 ・意欲を持って授業に取り組んでいるか、授業内容を理解し、適切に行動できるか、毎時間評価する。話をよく聞き、積極的に行動すること。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】保健体育・体育		単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	・ 1、2年次に学習した技術や体力を基本とし、総合的に学習する力を身につける。 ・ 生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を養うことで、健康の保持増進のための実践力を身につける。							
使 用 教 材	【教科書】現代高等保健体育 改訂版（大修館） 【副教材】最新スポーツルール(大修館)・現代高等保健体育ノート（大修館）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	各種目のルールや特性、基本技術を理解し、運動技能の構造と運動の学び方、記録を高めるための知識を身に付けている。自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身につけている。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の方法を考え、工夫している。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間と協力し、考えたことを他者に伝える力を身につけている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。					
評 価 方 法	授業への取り組み方を「学びに向かう力・人間性等」、学習内容を高めるための工夫を「思考力・判断力・表現力」、運動の実技試験や授業中での技術発揮（運動）の様子を「知識・技能」「表現力」として評価をし、それらを総合的に評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	陸上競技 ○走運動（短距離） ○跳運動（走り幅跳び） ○投運動（砲丸） 体育理論			歩、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を競技として行うことで、合理的な運動の技術を身につけます。 指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を学びます。				
2 学期	陸上競技 ○走運動（ハードル走） ○跳運動（三段跳び） ○投運動（やり投げ） 体育理論			歩、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を競技として行うことで、合理的な運動の技術を身につけます。 指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を学びます。				
3 学期	陸上競技 ○走運動（リレー競争） ○跳運動（走り高跳び） ○投運動（円盤投げ） 体育理論			歩、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を競技として行うことで、合理的な運動の技術を身につけます。 指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を学びます。				
学 習 上 の 留 意 点	・ 体操服等の準備を忘れずにしてください（見学時も基本的には同様です）。 ・ 活動場所（体育館、グラウンド、武道場等）への集合を、時間厳守で行ってください。 ・ 授業を見学するときは、必ず事前に担当教員に申し出てください。（理由等） ・ 授業時の怪我防止（安全確保）のため、授業でのルールと指示をきちんと守るようにしてください。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	ビジネス演習		単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	・社会や組織の仕組みやそこで働く人の姿勢と心構え、基礎的な事務処理能力などについての基本的な理論や技能を理解し、身につける。 ・ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展に寄与する能力と態度を養う。							
使 用 教 材	【副教材】秘書検定3級 集中講義（早稲田教育出版） 3級クイックマスターなど							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	企業の経営、経済活動に関する基礎的・基本的な知識や技術を身につけ、ビジネスの諸活動を適切に処理し的確に表現できる。	企業の経営、経済活動に関する諸問題の解決をめざして自ら思考と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	企業の経営、経済活動に関する諸問題について関心をもち、その改善向上をめざしてもにビジネスの諸活動に適切に対応する実践的な態度を身につけている。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、ビジネス演習に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査、小テスト等を総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	第1章 必要とされる資質 第2章 職務知識		・秘書の心得から、社会人や職業人としての基礎的な業務や日常の対応について広く学ぶことにより、仕事に対する姿勢を身につける。 ・企業における専門的な語句や社会常識について学ぶことにより、具体的に社会における対応を身につける。					
2 学期	第3章 一般知識 第4章 マナー・接遇		・社会人としてのコミュニケーションのとり方について学ぶ。 ・話し方や接遇の対応を学ぶことで、実社会で戸惑わない一般的なマナーを身につける。 ・会議の種類やビジネス文書の作成、保管等の技能を学ぶことにより、書類や日程管理を身につける。					
3 学期	第5章 技能 1年間のまとめ ・秘書検定の受け方 ・マークシート方式の答え方		・1年間学習したことを復習し、社会人としての基礎的な対応を身につける。 ・今までの学習したことを振り返り、その実力を秘書検定に反映させるとともに、社会人としての知識や対応の理解度を確認する。					
学 習 上 の 留 意 点	・マナーの基本は挨拶です。起立・礼・着席から始まり、起立・礼で授業が終わるまできちんと授業を受けましょう。 ・欠席や遅刻をしないように心掛けてください。 ・社会生活と同様、「話（指示）を聞く」、「話（指示）を理解する」、「話（指示）を実践する」の3点を心がけてください。 ・秘書実務検定にも対応できるように検定前には検定対策も実施します。							